

【7月の気象】

7月は、「梅雨明け」という季語があります。期間の前半は梅雨時期で、四国地方の梅雨明けの平年は7月17日ごろです。梅雨明け前の梅雨末期には、前線の活動が活発化して大雨となることがあります。近年では平成30年7月豪雨がこれにあたります。この年は、梅雨明け（7月9日ごろ）直前の7月5日～8日にかけて梅雨前線の活動が活発となり西日本を中心に記録的な大雨となりました。

梅雨明け後は、「酷暑」「炎暑」「熱帯夜」という季語にあるように、太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続くことがあります。熱帯夜は、昨年松山では年間40日あり、7月、8月で35日ありました。

気象庁と環境省は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される場合に、暑さへの「気づき」を呼びかけ国民の熱中症予防行動を効果的に促す「熱中症警戒アラート」の運用を行っています。今年（2024年）は10月23日（水）まで、運用を行いますので熱中症予防にご利用ください。

ここ5年の熱帯夜の日数(松山)

年	日数
2019	26
2020	35
2021	18
2022	46
2023	40

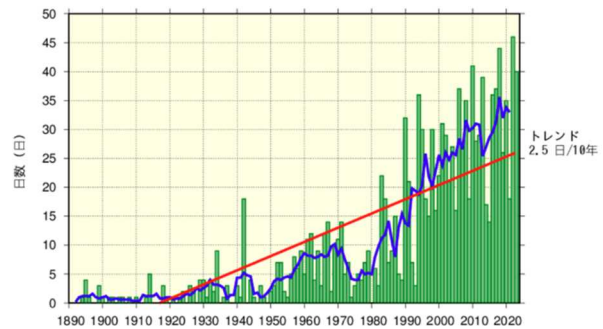
気象庁ウェブサイトにおける熱中症警戒アラートのページアドレス  
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#element=heat&contents=information>

【気象用語】「熱帯夜」について

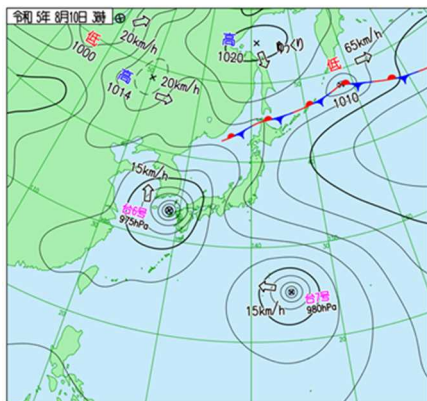
熱帯夜は夕方から翌日の朝までの最低気温が25℃以上の日を言います。近年の気候変動の影響もあり、松山の熱帯夜の日数は10年で2.5日の割合で増えてきています（第1図）。ここ2年は年間で40日を超えています。

昨年（2023年）8月10日には、松山で日最低気温が30.1℃（起時：2時10分）と初めて30℃を超えました。この日は、台風第6号が九州の西にあって北上していました（第2図）。南からの暖かく湿った空気の影響で高知県の山間部では断続的に雨が降っていましたが、松山市付近ではほとんど雨は降りませんでした。このため、松山市付近では、暖かい空気や山越の気流によるフェーン現象の影響もあり、夜間でも気温が30℃を超えました。

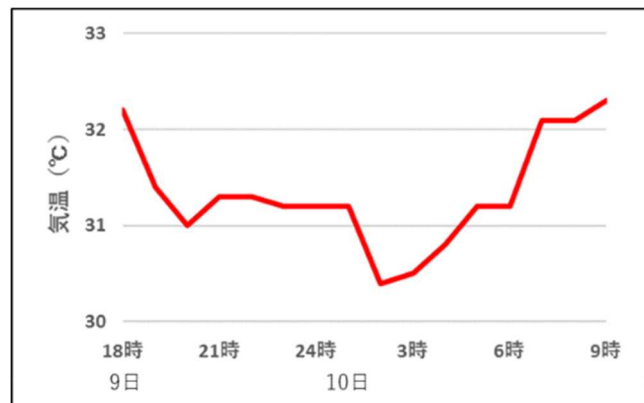
今後も熱帯夜は増えると予想されます。夜間でも適切にエアコンを使用するなど、熱中症に注意してください。



第1図 松山の年間熱帯夜日数(1890年~2023年)



第2図 天気図(2023年8月10日3時)



第3図 松山の毎時気温(2023年8月9日18時~10日9時)